

○ 設計主旨

「愛媛を元気ある場所にしたい」「愛媛の魅力を伝えたい」この施設は、これらの思いを形にした歴史博物館です。

この博物館は、展示品を見るだけでなく、実際に触れたり作ったりできる体験型の博物館です。館内の体験施設は「江戸」「明治・大正」「昭和」「平成」「令和」の5つのブースに分かれており、それぞれの時代の暮らしを体験できます。そのため、愛媛の歴史を楽しみながら愛媛の歴史を理解できる建物となっています。

博物館は高速道路からも見える場所にあり、車で通る人が「少し立ち寄ってみよう」と思えるような外観が特徴です。建物の屋根は大きく湾曲しており、その上には愛媛のシンボルである「みかん」をイメージしたデザインが施されています。さらに、みかんの葉を表現した高さの異なる5つの建物が並び、楽しそうに人々が集う広場も見えるため、訪れる人の興味を引く建築となっています。

この博物館が愛媛の新たなランドマークとなり、地域に活気をもたらす存在へと成長していくことを願っています。

○ 建設予定地、建築用途、敷地面積、建築面積

建設予定地：

愛媛県今治市

近見山の山頂付近



今治市は、瀬戸内海に面した温暖な気候のまちで、タオルの生産や造船・海産産業が盛んです。しまなみ海道の四国側の玄関口でもあります。

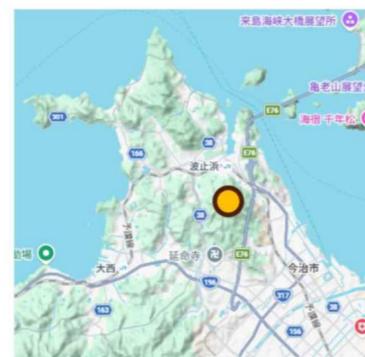
建設予定地からは今治市の美しい景色を一望できます。また、南海トラフ地震の発生が懸念されていることから、津波の被害を受けにくい高台に建設し、災害時には避難所としても利用できるようにしています。

建築用途：博物館兼避難所

構造：鉄筋コンクリート造  
鉄骨造

敷地面積：46134.4m<sup>2</sup>

建築面積：10903.2m<sup>2</sup>



○ 施設説明

駐車場に車を止め、歩道に沿って進むと博物館の入口に到着します。建物に入ると広々としたエントランスホールがあり、そこで受付を行います。最初はゆっくりと展示を見学し、その後、5つの体験型施設を江戸時代から令和まで順番に体験します。時代の流れを実感でき、体験で作った作品は持ち帰ることができるため、旅の良い思い出になります。体験を終えた後は、1階のプラネタリウムで過ごしたり、2階のフードコートで景色を眺めながら食事を楽しんだりすることもできます。フードコートでは、各時代の人々が食べていた料理を再現したメニューを味わうことができ、当時の雰囲気をより深く感じられます。最後にお土産売り場で買い物をして、博物館を後にします。

博物館の東側には広い広場があり、小さな子どもから高齢者まで、誰でも利用しやすい空間となっています。噴水などの水辺は、訪れる人に癒しを与える場所です。坂道や階段もありますが、足の不自由な方のためにエレベーターを設置しているため、安心して利用できます。近隣に住む人々も、博物館の見学だけでなく、食事や運動など、日常的に気軽に利用できる施設です。

# 愛媛の歴史を年代別に…

## 体を使って学習できる施設が魅力！

### 【体験ゾーンの概要】

#### ① 江戸ゾーン | 伊予松山藩の城下町体験



- やること：昔の人になってみる
- ・着物や羽織を着て、鏡の前に立つ
  - ・そろばんで簡単な計算をしてみる
  - ・筆と墨で文字を書く

← 昔の人の生活はどんな感じだったかが分かる

#### ② 明治・大正ゾーン | 近代化する愛媛



<明治>

- やること：新しい時代の始まりを感じる
- ・学生服や洋服を着て写真を撮る
  - ・昔の印刷道具を使って文字を写す
  - ・明治時代の椅子に座ってみる

← 暮らし・考え方・町の様子が、一気に今の日本に近づいた

<大正>

- やること：新しい文化を楽しむ時代を体験する
- ・洋服（大正ロマン風）を着て写真を撮る
  - ・レコードの音を聞く
  - ・カフェに寄って休む体験をする

← 日本の暮らしがおしゃれで自由になってきたことが分かる

#### ③ 昭和ゾーン | 戦争と復興、暮らしの変化



- やること：おじいちゃん・おばあちゃんの時代を体験
- ・昔のおもちゃで遊ぶ
  - ・昭和の家の中に入って当時のものを触ったりする
  - ・テレビやラジオの音を聞く

← 今より不便だけど、人のつながりが強かったことが分かる

#### ④ 平成ゾーン | グローバル化する愛媛



- やること：今につながる時代を体験
- ・昔の携帯電話を触ってみる
  - ・パソコンで簡単な操作をする
  - ・災害が起きたときの行動を選ぶゲーム

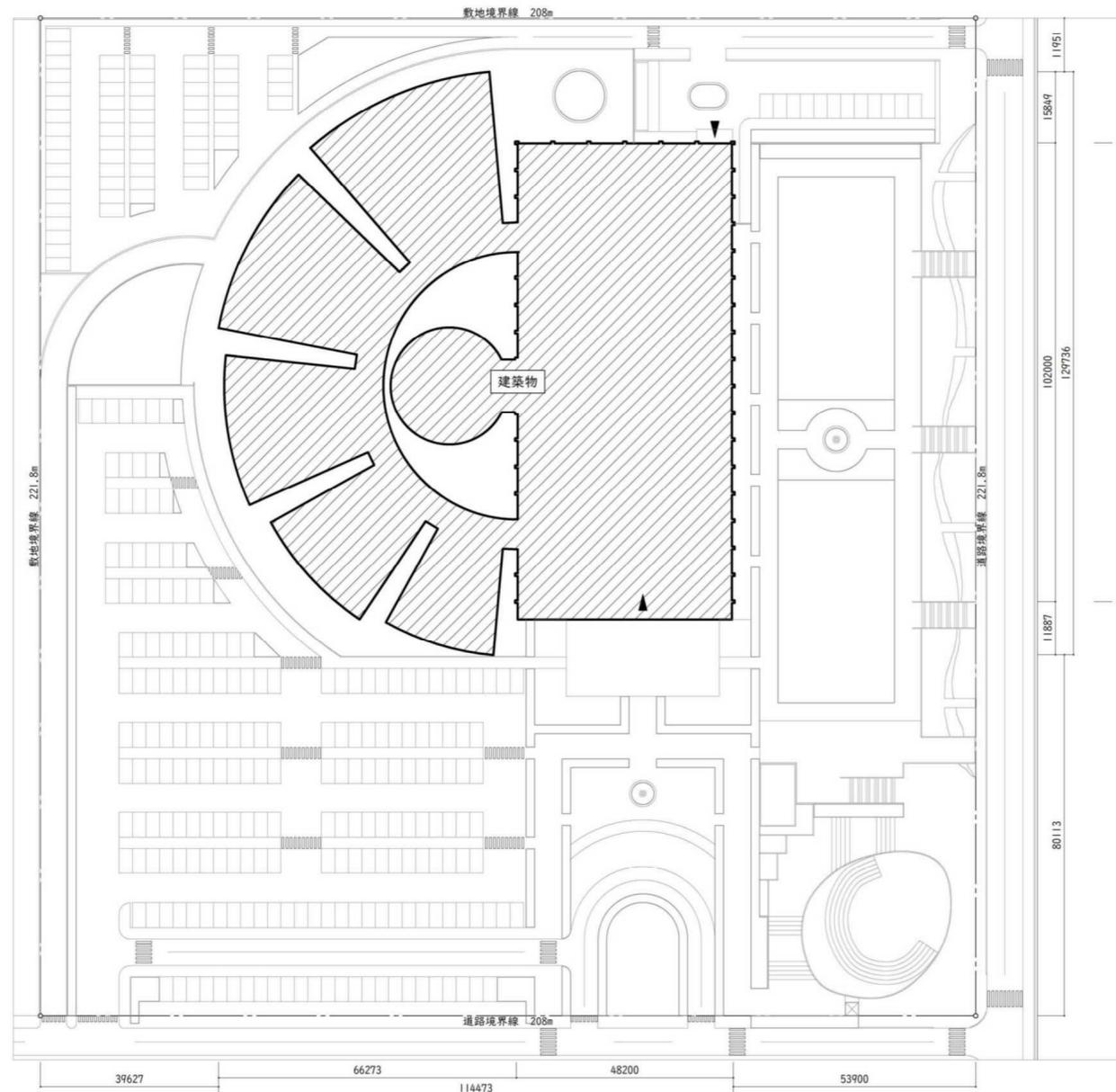
← 情報が増え、防災が大切になったことが分かる

#### ⑤ 令和ゾーン | 未来の愛媛を考える



- やること：未来について考える
- ・タブレットで未来の町をつくる
  - ・エコな行動を選ぶゲームをする
  - ・自分ができていることを書いて貼る

← 未来は自分たちの行動で変えられることが分かる



配置図 1:1000

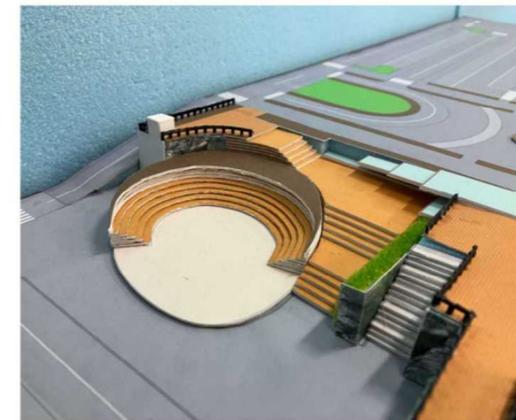


↑ 入口方向（南側）から施設を見たイメージ



↑ 西洋風の芝庭

左右対称の芝生を中心とした静かな鑑賞空間とした。中央に円形の要素を配置することで、視線が自然に集まり、庭全体にまとまりを持たせている。展示室に面した位置にあるため、来館者は展示を見たあとにこの庭を眺めながら、気持ちを整理することができる。また、東側には周囲の通路から一段下がった落ち着いた雰囲気をつくり出し、自然の中のような静けさを感じられる空間としている。



↑ サンクンガーデン

人が集まり滞留できる開放的な空間として計画した。階段状の構成とすることで、腰掛けたり、待ち合わせをしたりすることができ、誰もが安らぎを得る庭として機能する。また、サンクンガーデンとすることで、外部からの視線を抑えつつ、自然光を取り込みやすい構成としている。



↑ 施設の東側から今治市を見下ろす

# 毎日通える施設！

## 災害時には博物館全体が避難所にもなる

### 【展示ゾーンの概要】

#### ① 江戸ゾーンの展示

テーマ：藩と城下町

[実物展示]

- ・刀・槍 ・藩札 ・農具・生活道具 ・城下町の絵図
- ・「藩主とは何か」 ・松山藩・宇和島藩・大洲藩のちがひ
- ・身分制度（武士・町人・百姓）

#### ② 明治・大正ゾーンの展示

テーマ：近代化と産業

[実物展示]

- ・学校の教科書 ・軍服・学生服
- ・鉱山道具（別子銅山）

[パネル展示]

- ・廃藩置県で何が変わった？
- ・愛媛県の誕生
- ・鉄道・港の整備

#### ③ 昭和ゾーンの展示

テーマ：戦争と復興、暮らし

[実物展示]

- ・昭和の家電 ・学用品 ・当時のポスター

[パネル展示]

- ・戦時中の愛媛
- ・高度経済成長と生活の変化

[映像展示]

- ・昭和の街並み映像 ・市民の証言（短時間）

#### ④ 平成ゾーンの展示

テーマ：つながる社会

[実物展示]

- ・ガラケー ・初期PC ・今治タオル製品 ・観光パンフレット

[パネル展示]

- ・グローバル化 ・産業とIT ・人口・地域課題

[映像展示]

- ・愛媛の国際交流 ・スポーツ・文化

#### ⑤ 令和ゾーンの展示

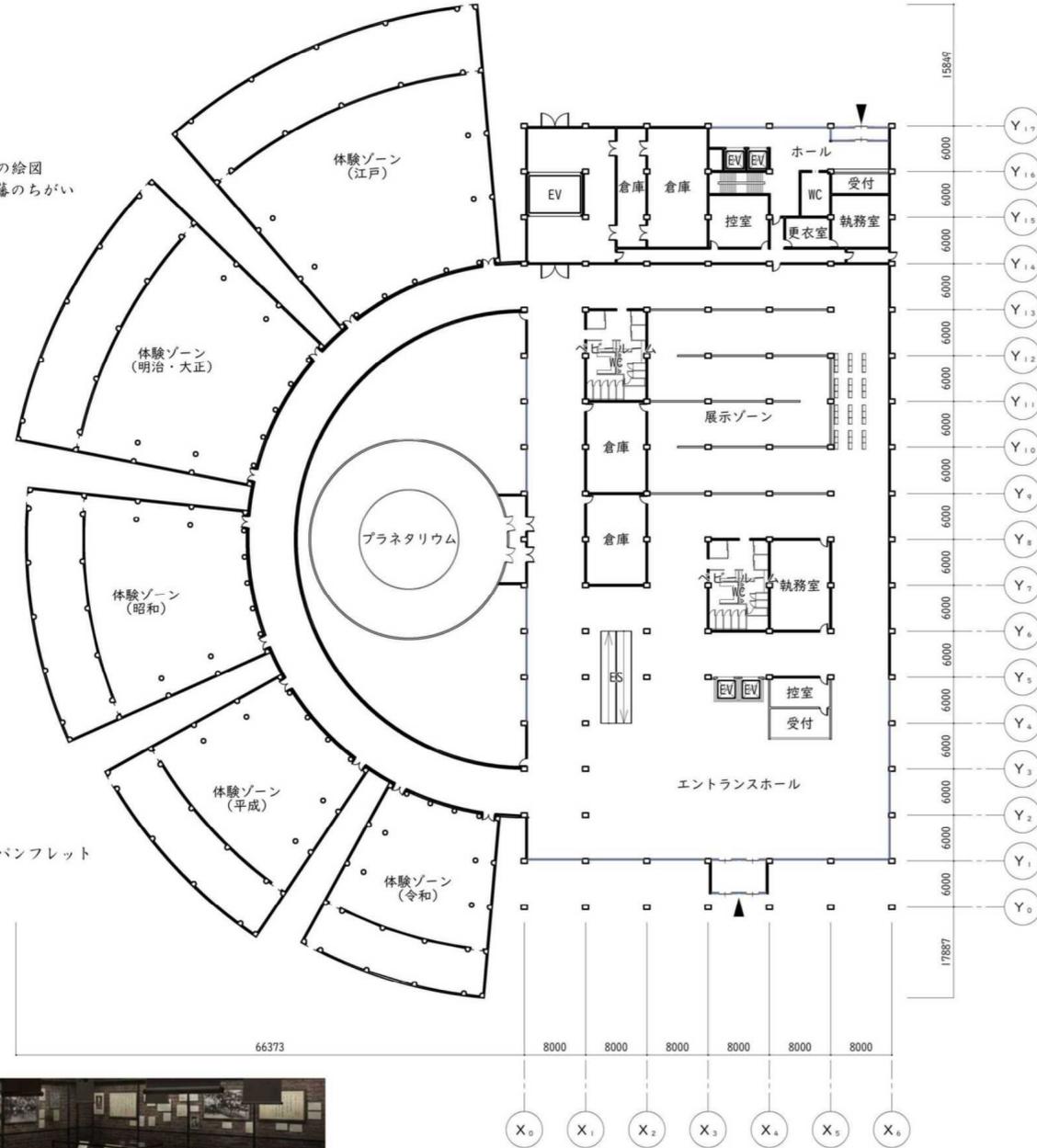
テーマ：今と未来

[実物展示]

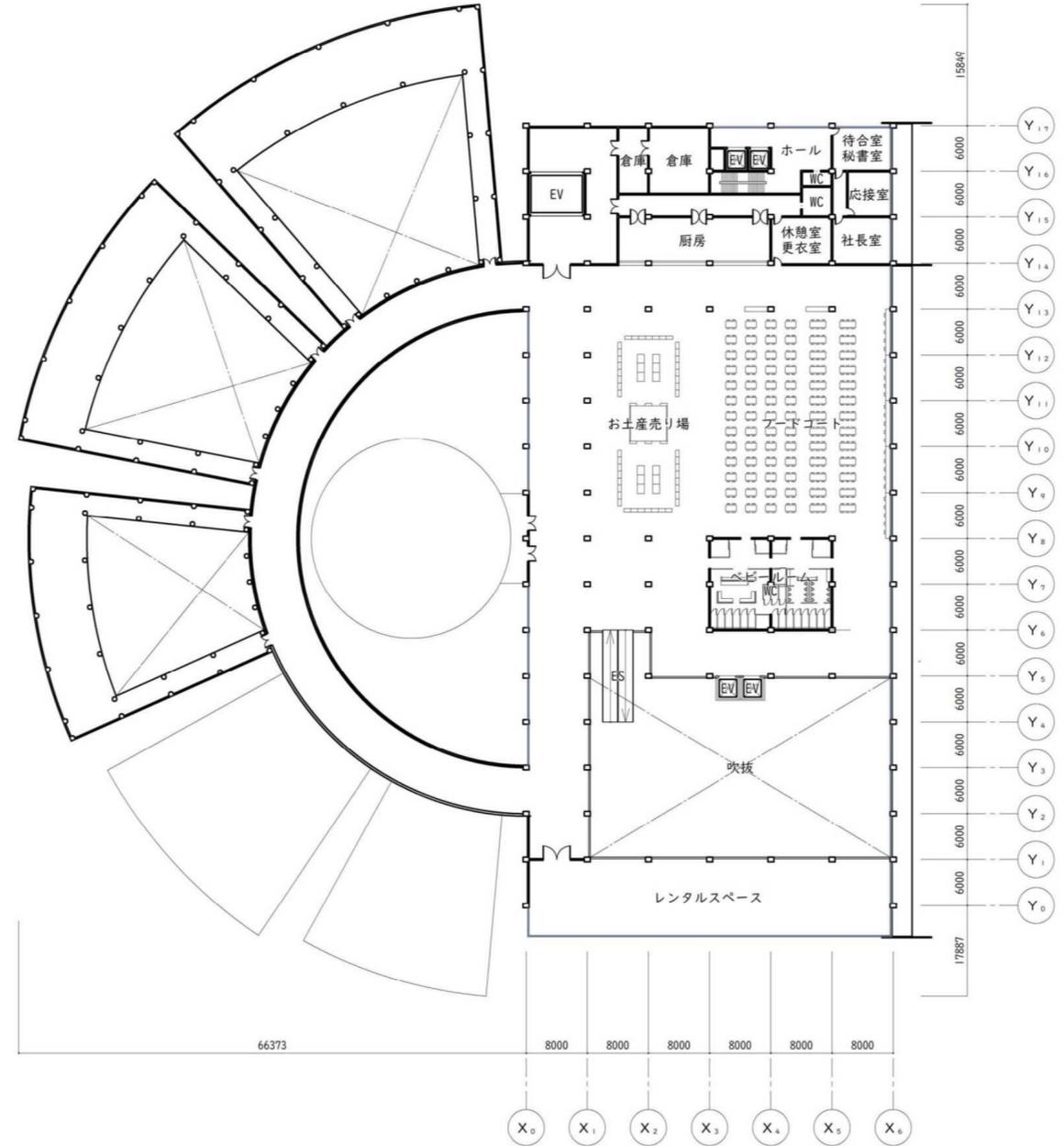
- ・最新技術紹介（模型）
- ・防災関連展示

[パネル展示]

- ・SDGs×愛媛
- ・これからの課題と挑戦



1階平面図 1:600



2階平面図 1:600

#### ◎ プラネタリウム

江戸時代は電気のない時代、松山の町から見えた満天の星空を再現し、昔の人が星や月を目安に時間や季節を感じていたことを学ぶ。明治・大正時代は近代化が進み、街に明かりが増えて星が見えにくくなっていく様子を映像で体験し、くらしの変化と自然との距離の変化を知る。昭和～平成・令和は気象衛星や宇宙開発の映像を通して、現代の私たちが空や地球をどのように観測しているかを学ぶ。



#### ◎ 避難所

平常時には歴史を学ぶ文化施設であると同時に、災害時には地域の避難所として利用できる建物として計画している。展示室やフードコートなどの広い空間は、多くの人を受け入れられる構成とし、非常時には避難スペースとして転用できる。

また、サンクンガーデンや中庭を設けることで、自然光や風を取り入れやすくし、停電時でも安心して過ごせる環境をつくっている。トイレや倉庫、管理スペースは防災利用を想定し、物資の保管や運営がしやすい配置としている。歴史を伝える場所であると同時に、地域の人々の命を守る拠点となることを、この博物館の大きな役割の一つとしている。



#### ◎ フードコート

このフードコートは、江戸時代から令和までの歴史展示と連動し、各時代の主流だった食文化を楽しめる空間として計画した。来館者は展示を見たあとに食事をするだけで、歴史を「見る・学ぶ」だけでなく、「味わって感じる」ことができる。提供するメニューには、当時の食文化をもとにしながらも、現代の人が食べやすい工夫を加えている。

また、愛媛の食材を積極的に取り入れることで、地域の特色や魅力も伝えられるようにしている。フードコートは休憩や交流の場としても機能し、来館者がゆったりと過ごしなが、展示内容を振り返ることのできる空間となっている。



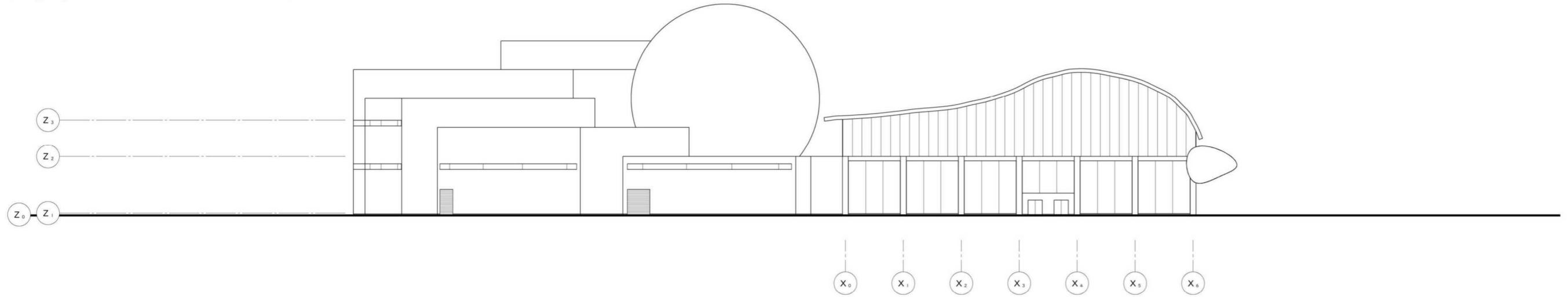
#### ◎ お土産売り場

お土産売り場は、展示を見終えた来館者が、体験の余韻をそのまま日常へ持ち帰ることができる空間として計画している。取り扱う商品は、江戸時代から令和までの展示内容や地域の歴史・文化をモチーフとしたものとし、見学後に展示内容を振り返りながら楽しめる構成としている。

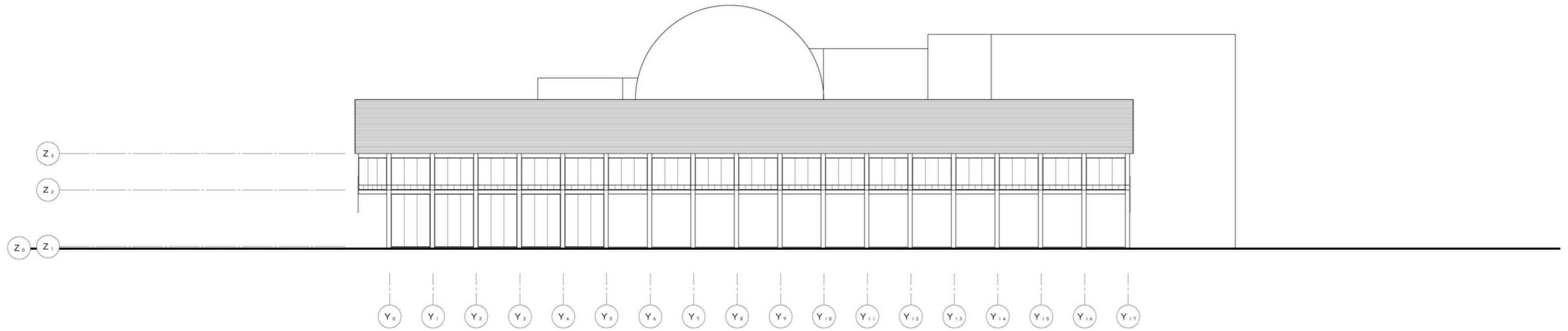
また、ミュージアムショップは展示動線の終点付近に配置することで、来館者の流れを妨げることなく、自然な立ち寄りやすさを促す計画とした。さらに、平常時だけでなく災害時には物資配布や情報提供の場としても活用できるように、多目的な利用を想定している。



空に浮かぶ「みかん」？  
高速道路からも目を引く外観



南立面図 1:400



東立面図 1:400



↑ 東側の道路から施設を見たイメージ